



特別
13
3446
5止



才二 うまうはつてし重しに重しからせむ程を
 子あへの園よりたのしくぬ門甚おれ
 ひるも無之しかど敵の中とまぬけ拍子
 忠片よまうとむはつと者い度の内位
 才三 まては海路の日も月もえわくく佛法は法
 仏抄その中事の中や法 衆は赤肉衆の後
 悪くは身て死しうかへ縄目よめる罪者
 藕の糸もたぐ代は織物と説の千徳樂

① いやらふ毒の悪態と腹にまかす大膽

六条の正身あいにまぐ鬼もあう 慈惠の太後のあうくん
 せしけらるも皆物給すものしひそく 痛敷女の大起り
 ぼくもあうらうのあせとほりけ 父母はすてうとあう
 族いりあてあうらうのあせとほりけ 父母はすてうとあう
 けりあいお極格氣はうれひまれけはすつものりも氣とま
 して敵ひたししにばりあう格も電燈はしてはくしとあう
 けりあいお極格氣はうれひまれけはすつものりも氣とま
 ありあうらうのあせとほりけ 父母はすてうとあう
 けりあいお極格氣はうれひまれけはすつものりも氣とま
 ありあうらうのあせとほりけ 父母はすてうとあう
 けりあいお極格氣はうれひまれけはすつものりも氣とま





。おひのふりーのあしをーと云

うぢの冠者に慕ふ松のあしぬの他
瑞を子枝うらるる柏のあしぬの身文

河加太史記

全部五冊

源織の業末なる榎の思の程なる波の夜
還幸の行列ハ藤のまゝのやく日月の族

右より左へ通す月二より三の頃ハ東の流す影と云

寛政六年

子ノ正月吉日 京より河加太史記を下す所

以文字屋

以在表の板

